

市政メールモニター第13回アンケート結果

多摩市友好都市事業について

実施期間 平成22年5月25日(火)～5月31日(月)

メールモニター登録者数 142人

回答者数 80人(回答率56.3%)

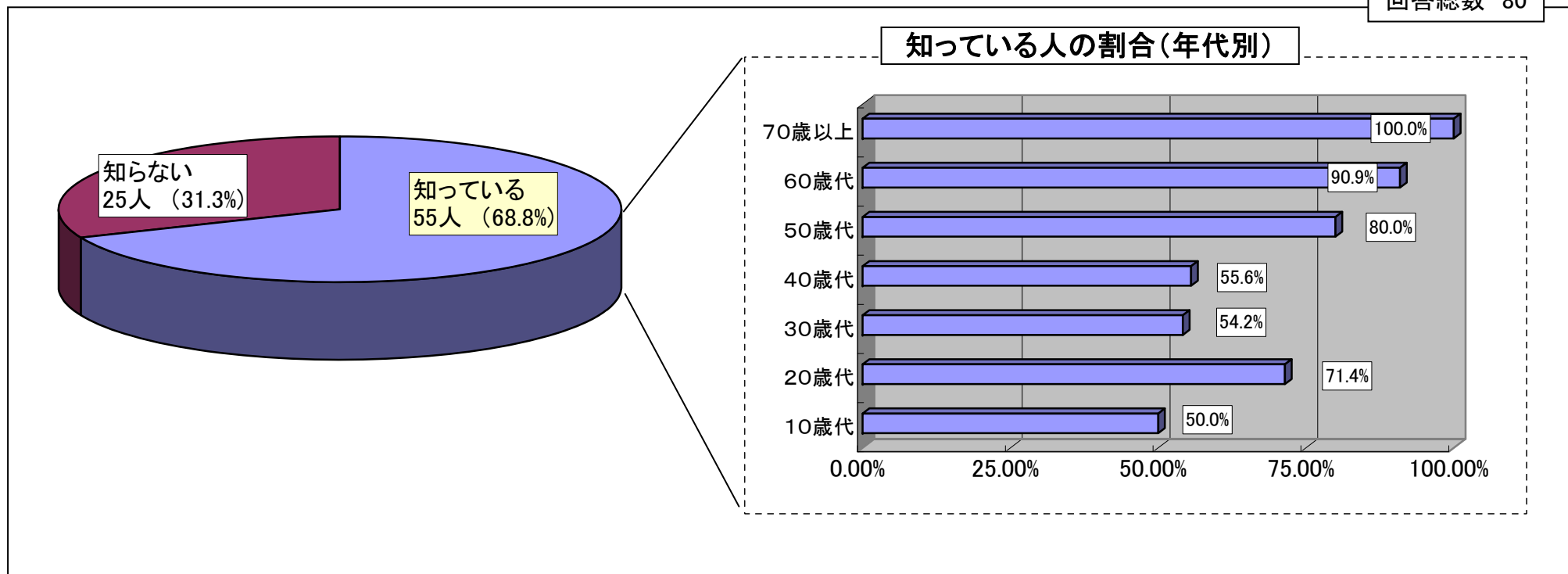
<性別>	人数	
男性	47	58.8%
女性	33	41.3%
未回答	0	0.0%
合計	80	

<年齢>	人数	
10歳代	2	2.5%
20歳代	7	8.8%
30歳代	24	30.0%
40歳代	18	22.5%
50歳代	10	12.5%
60歳代	11	13.8%
70歳以上	8	10.0%
未回答	0	0.0%
合計	80	

多摩市では、長野県富士見高原に、多摩市八ヶ岳少年自然の家が開設されたのをきっかけに、昭和61年に富士見町と多摩市は友好都市の提携を結びました。それ以来、文化やスポーツ等を通して交流活動が行われています。

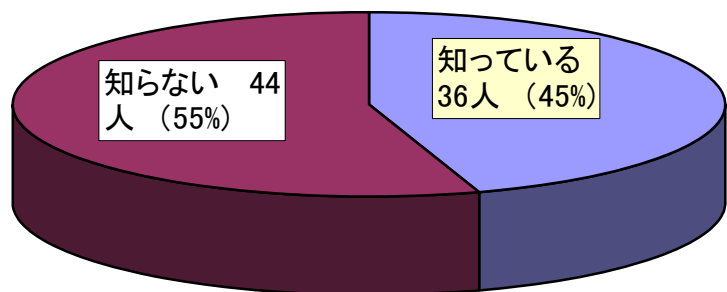
【設問1】 あなたは、長野県富士見町が、多摩市の友好都市となっていることをご存知ですか(1つだけ)

回答総数 80

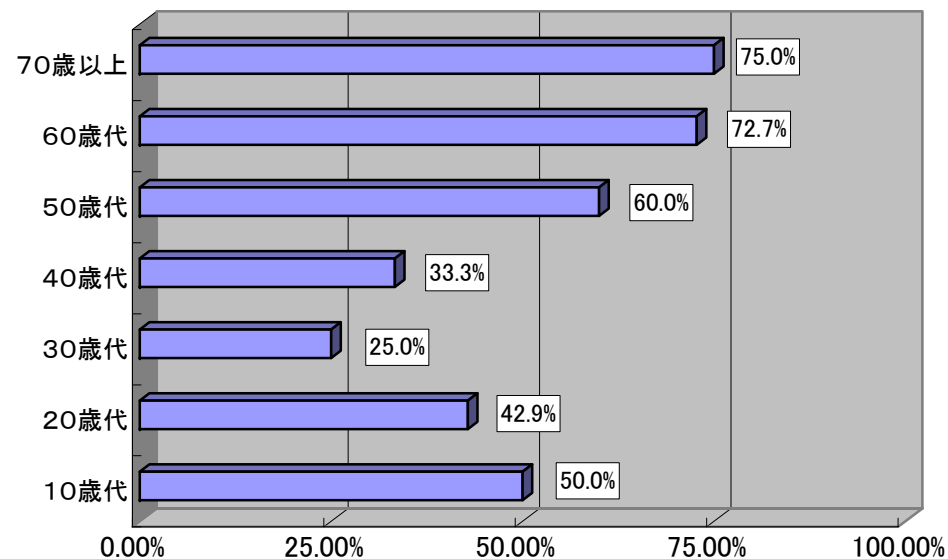


【設問2】 毎年12月、多摩センターイルミネーションのために、富士見町からモミの木をいただいています、
あなたはそのことをご存知ですか(1つだけ)

回答総数 80

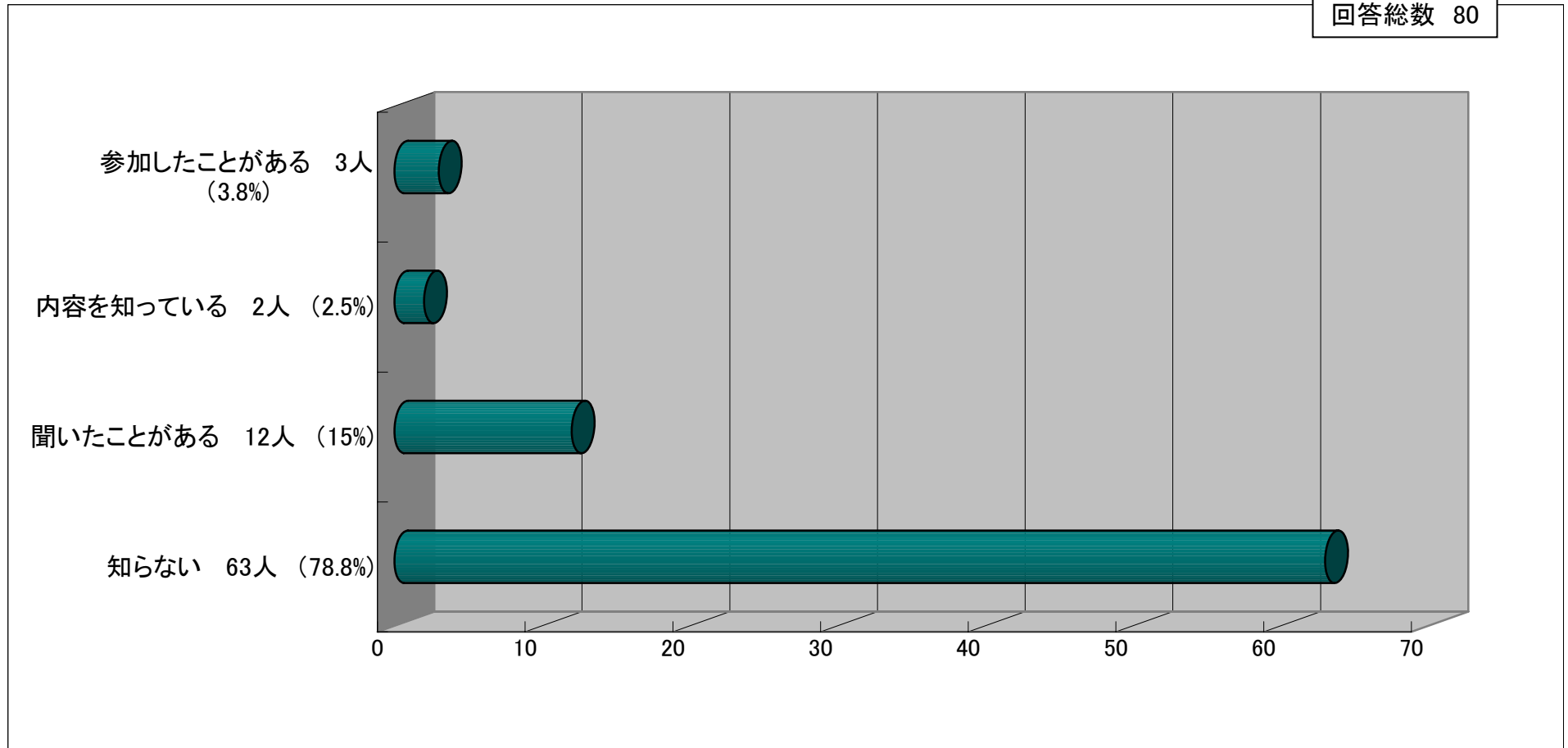


知っている人の割合(年代別)



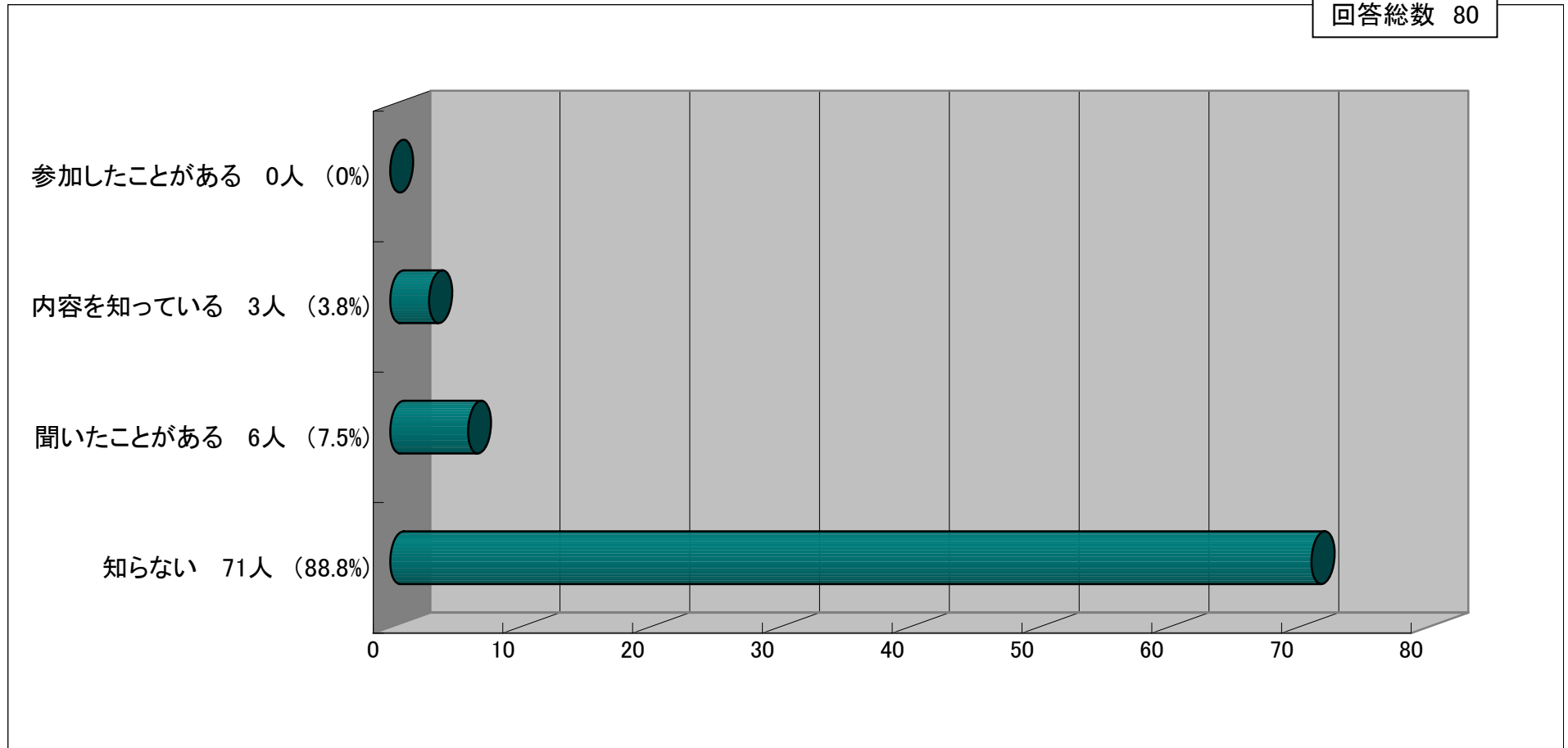
【設問3】 多摩市では、毎年6月、富士見町で実施されている「花の里植栽ボランティア」に参加する「入笠山に花を植えるボランティア」という事業を行っています。
あなたは、この事業をご存知ですか(1つだけ)

回答総数 80



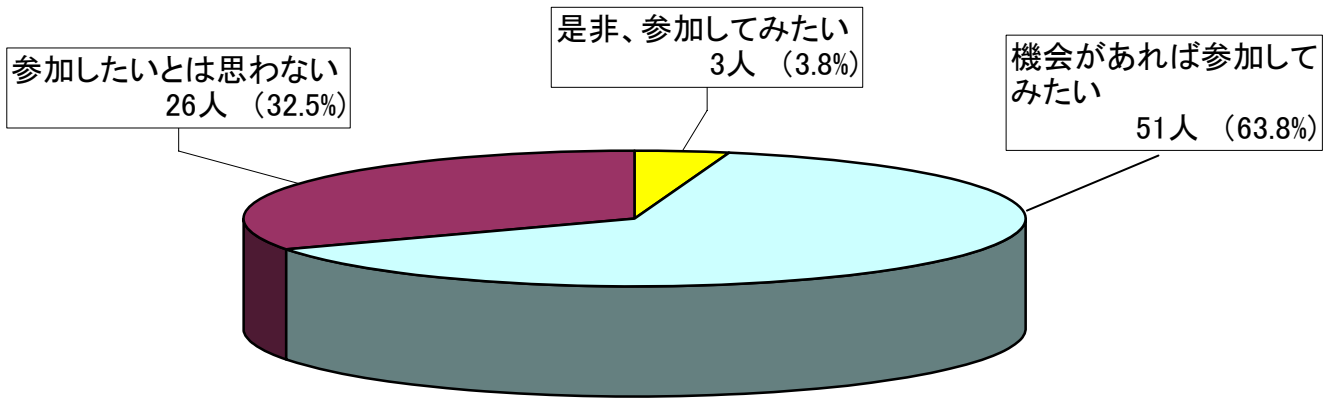
【設問4】 多摩市では、毎年7月、富士見町で行われる「オッコー祭り」に、踊り連としてお祭りに参加する「オッコー祭りに参加する旅」(一泊二日)を実施しています。あなたはこの事業について、知っていますか(1つだけ)

回答総数 80

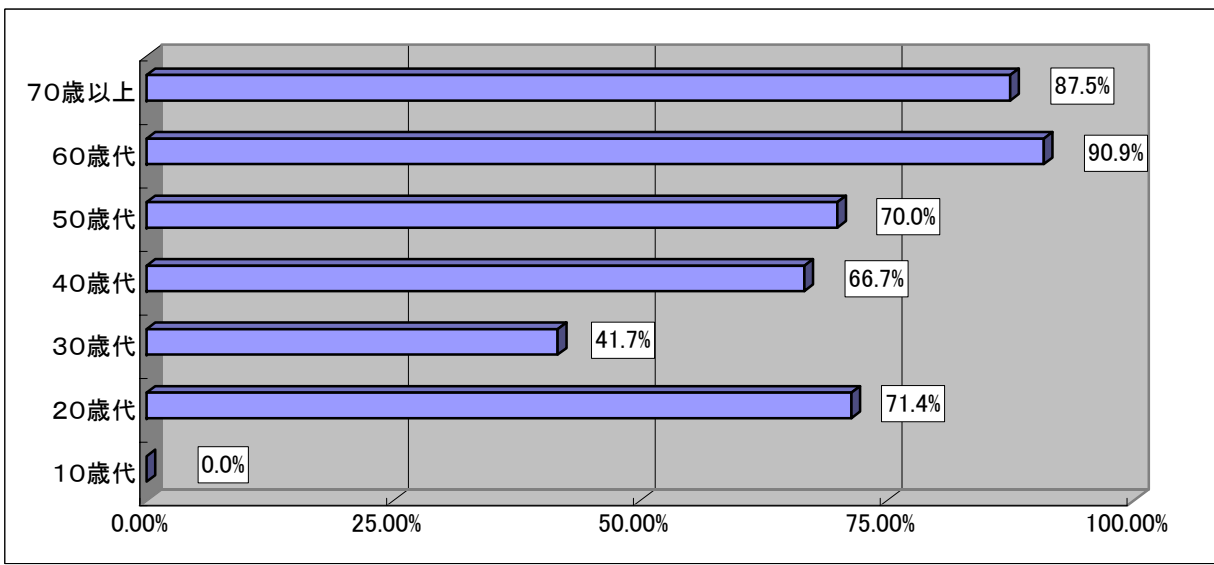


【設問5】 多摩市で行っている「入笠山に花を植えるボランティア」、「オッコー祭りに参加する旅」等の友好都市交流事業に、参加したいと思いますか(1つだけ)

回答総数 80



**参加意向のある方の割合
(年代別)**
(「是非、参加してみたい」、「機会があれば参加してみたい」)
54人 (67.5%)



【設問6】 友好都市事業について、ご意見があればご記入ください

(友好都市事業についてのご提案)

催事共同開催だけでなく、もっと積極的なエコ、省エネ、自然、水/空気等の健康な地球づくりの友好都市事業等まで広めて欲しい。

何故、数ある自治体の中から富士見町という自治体と友好関係になったのか、勉強不足かもしれませんがこれを機会に知りたい。利権がらみなどのモチベーションではなく、多摩市が教養を高めたり、文化が高い自治体になれるよう高められる関係になる自治体との友好関係を増やしていきたい

もっと友好都市を感じる仕掛けが欲しいです。例えば富士見町ウイークと名付け、聖蹟で物産展をやったり。

率直に言えば、田舎の都市同士が連携して一体どうするつもりなのか、と思います。友好都市事業であっても、多摩市の価値を上げるPR戦略事業の一環でなければ意味がないと思います。多摩市の価値を上げる、というのは、大きな流れの中で多摩市の地価を維持したり、収入を持つ人口の増加、最終的には税収入につながる形にならないといけないと思います。当然、植栽も大切ですし、踊り連の交流もそれ自体には意味があります。しかし、「事業」という視点を持つのであれば、「仲良く」とか「楽しいね」「文化的価値がある」というような漠然かつ凡庸な価値基準にとられることなく、市制・税制にどんな利点をもたらすことができるのか、ということも、もう少しアグレッシブに考える姿勢を持って欲しいと思います。単なる植栽活動も踊り連の活動も、高齢者層にはレクリエーション的価値があるのかもしれませんが。しかし税金を元となってゆく若い世代の人間にはまったく魅力がありません。もっと若い人たちが魅力的だと思う友好都市活動・事業を考えてください。

富士見町には知人もおります。友人の山荘もあり、何度も出かけています。多摩市の保養所に宿泊したこともあり、親近感を持っています。小さな町で財政は厳しいようです。(市営のパノラマスキー場の経営悪化など)。しかし、井戸尻考古館や図書館、そばどころ「おっこと亭」など特色ある施設を運営しています。多摩市との関係でかねてから思っていたのは、市民の交流の中で、小中学生の交流を盛んにしたらということでした。たとえば、多摩市の施設、青少年センターに宿泊して「農業体験」を行なうことです。富士見町には休耕田が多い。そのうちの田圃を借りて、稲作を実習すること。市内の小中学校がスケジュールを組んで田植えから刈り取りまでを交代でやることはどうでしょう。近年、小中学校での食育教育が行なわれているようです。これはこれで結構ですが、その前の「食農」教育が必要だと思います。この事業は保護者や一般市民が参加することも可能でしょう。多摩地域の自治体では、田畑や山林を農村部に借りて、こうした教育を実施しているところもあると聞いています。たとえば武蔵野市。イベントを共催するのも結構ですが、こうした地道な交流こそ必要と考えますが、いかがでしょう。以上。

「ふじみ」はとてもリーズナブルなのに部屋もキレイで環境もよく、食事も美味しいのでよく利用させていただいています。料金の値上げも囁かれています。ぜひともこのままの料金設定でお願いしたいです。あと、友好都市であるなら、多摩市民と証明できれば富士見町の宿泊施設やスキー場の利用になにか特典があるとうれしいです。もちろん多摩市も富士見町の町民という証明があることで施設の割引等の特典を設ければ、観光に来てくれるのではないのでしょうか？

例えば、ピューロランドの割引やバス1日乗り放題券の販売など・・・企業が協力してくれないと実現はなかなか難しいと思いますが、長期の休みではなく、土日や祝日など短期の休みのにどこか行こうと思ったとき、遠出とまではいかないが高速で1時間くらいの場所ですら楽しめる場所を探したときに、特典があるということで集客の可能性は広がると思います。

他にも友好都市を増やして交流を増やしてはどうか

多摩市の友好都市事業は長野県富士見町だけの事業ですか。もっと別の都市とも提携して活動してはどうでしょうか。その都市については市民の意見を広く聞いたうえで、決めることが肝要である。今年度トライしてみてもどうでしょうか。期待しています。

友好都市事業は今後も続けてゆくべきであるが、単に人との繋がりだけでなくもっと広い範囲の付き合いを行うことが大切とおもう。

北海道や九州など、もっと遠方で気候も風土も産業も違う都市・町・村と交流を広げるのも良いかと思えます。

大学生になり、一人暮らしをするため多摩市に越してきて、7年目になる者です。私の住んでいた町は、オーストラリアのケアンズ市と姉妹都市を結んでいました。派遣された外国人教師が小学校の授業で海外との生活の違いを話して頂き、とても興味を持ったのを覚えています。姉妹都市事業のアンケートに海外との結び付きが無かった為、書かせていただきました。近くの大学からアジア圏の留学生を招き、『アジアの中の日本』と言うテーマで、質疑応答の形で授業をした事もありました。

(友好都市事業を進めるのに必要な費用がどのくらいかかるのかーーということを書き云えば) 更に北東アジア諸国とも同じような取り組みをすれば、各国間の住民交流をして、将来的にも平和友好の礎が築かれることになりましょう。

以前から思っていますが、国内だけでなく海外都市との事業は、行わないのでしょうか？

市内には、TICと思いましたが、国際交流団体が、活動していますが、市内在住の外国人も居りますので、その人達との交流、親善を計る為にも、希望する全員が、参加出来ますよう市としても協力すべきと、思います。

海外のニュータウンで、公園の樹木や自然が、残っている同規模の都市との友好都市とか姉妹都市とか検討すべきでは、ないでしょうか？

最近では、海外への留学生の減少とか海外への仕事での赴任を、嫌がるとか海外での日本人の存在が、減少し、安全で暮らし易い国内での生活を、希望する傾向が、強いと、聴いています。

貿易やプラント関係でも中国、韓国に負けています。そのようなことで、良いのでしょうか？

ご質問の主旨から外れて恐縮ですが、八ヶ岳少年自然の家は私も子供が小さいときに何度か利用させていただきました。

なかなか安く泊まれる施設も少ない時でしたので、ありがたかったと記憶しています。

さて、現在の施設の利用状況はどうなんでしょうか？建て直しがされていなかったら、老朽化しているのではと考えます。

それと同時に利用率も低下しているのでは、と考えます。八ヶ岳少年自然の家についても、今後の計画を作る必要があるのではないのでしょうか？

(友好都市事業に関する情報提供を)

何故、他県に少年自然の家を開設する必要があったのか、経緯からしてよく分かりません。今でも多摩市の子供達が林間学校か何かで利用しているのでしょうか。稼働率も知りたいところです。長野県のような田舎と友好都市なんて格好悪いです。お互い自慢できるような文化がないのだから、交流しても何のメリットもないと思います。

どんだけ税金を使っているのか知りたい。

友好都市事業にどの位の予算を執行しているのか知りたい。

友好都市を作ることで市民へどのような利益があるのかよくわからないのが問題だと思います。

どこの市でも行っている事業ですが、どこまで効果があるのか、またどうしてその都市と友好都市を結んだのかが、いまひとつ周知されていないような気がします。広報をもう少しされた方がいいのかなと感じています。

友好都市事業について、一般論としての漠然としたイメージはもっているが、具体的にはどんなことをやっているのか、何のためにやっているのか、市民にはどんなメリットがあるのか(短期的なメリットや経済効果だけでなく、長期的な効果も含めて、大局的な視野でのメリット)などが伝わってこない。まずは、友好都市事業の担当者自身が、この事業は何のためにやっているかを自問したうえで、そうして得られた結論を市民一人一人にアピールしていったらどうでしょうか？

施設紹介・割引や食べ物紹介など、「お得で気軽な観光」に生かして欲しい。遠くまで行って野山にわざわざ花を植えるなんて時代遅れでばかばかしいし、踊りも踊らない人には関係ない。むしろ踊りに来るイベントを開催して、文化を紹介して欲しい。コチラは富士見町に何をしているのか？知らない。

友好都市事業についてほとんど知らなかった。もう少しPRする必要もあると思うし、富士見町の農産物等も積極的に買いたいと思うので購入できるようにしてほしい。

有効都市事業については知りませんでした。その経緯や背景を含めてPRしていただけるといいかと思います。

友好都市事業はとても良いことだと思いますが、「内容が良く見えない」とおもいます。

(友好都市事業に関するPRが足りない)

どこを何をやっているかわからない。アピール不足なのでは？多摩センターあたりでイベントしてみたら？

もっと市民に広報するべきだとおもいます

上記の内容を知らない人が多いと思うからポスターなど作って告知したら良いと思います。

市報にも継続的に掲載してほしいです。
また、HPトップからふじみの紹介ページまでたどり着くのに分かりにくいのでバナーがあるといいと思います。
「フレンドリーふじみ」の予約が電話でできるのはいいですね。

HPトップページでもっとアピールしたら関心が持てるのではないのでしょうか？何を行っているのか知りませんでした。

もっと公知になるように宣伝したほうがよい。

やはりこの事業についてPR不足ではないかと思います。

八ヶ岳少年自然の家には学校行事で何度か行ったことがあるが、友好都市事業のことは知らなかった。

(事業への要望など)

これからも1地域だけでなくどんどん この事業すすめてもらいたいー

楽しそうな催しです。歴史もずいぶんあるんですね。モミの木と花を植える交換事業もとてもよいアイデアだと思います。富士見町はまだ行ったことがありませんが、ぜひとも行ってみたいとなりました。これからも友好都市として親密度がますますような交流事業が続けられれば良いと思います。

八ヶ岳少年自然の家へは小学校の行事で行きました。林業体験や森の中でのオリエンテーリング、夜2時から日の出まで歩く星空観察など、鮮明に覚えています。自分の子どもにも是非行ってほしいと願っています。

いずれも家族連れ対象のようで、一人では参加しにくいと思う。

これまで事業内容をあまり知っていなかったので、特別に意見はありません。

地域性が異なる自治体とのコミュニケーションは相互関係が向上することもあるでしょうし、大変良いことだと思います。八ヶ岳少年自然の家は中学生の頃に訪れ、東京では触れることができない自然や夜空を体感でき、体験しないとわからないことがあることを教えてくれた貴重な経験でした。友好都市事業を通してかけがえの無い経験ができることもあるので是非継続して、より良い相互関係を築いてもらいたいです。

緑豊かな多摩にいと、自然の大切さがよくわかる。多摩の自然は富士見町の自然とは異なる部分もあるが、友好都市の双方で互いに自然保護の大切さを伝える活動を行うのは素晴らしい。

個人的にも毎年スキーに行っていますが、双方簡単に行き来できる距離であり、自然豊かな富士見町との交流は多摩市にとっては有益だと考えています。
